

## 前書き

欧米との出会いによってアジアの「近代化」が創出される以前に、静かな変革はすでに日本をはじめ、ユーラシア各地で試みられていた。20世紀に入ってから、東西二つの陣営に分かれたアジア各国・各地域は、従来のいわゆる「東洋的専制」とは大きく異なる権力システムに組みこまれた。社会主義圏のようにイデオロギーを前面に突出させた文化表象のみならず、「ひかえめに」創出しつづけて、最終的には自由主義の勝利を訴える資本主義諸国における文化表象の両方を再検討する必要が求められている。「アジアに対する再思考」によって、「脱イデオロギー時代」の21世紀の人々が如何なる方向へ向かおうとしているのかについての手係りを探求したい。

「アジア研究」は、静岡大学人文学部が掲げる戦略的な中長期目標の一つである。目標の着実な実現のために、2005年度から分野・学科横断の「アジア研究プロジェクト」がスタートした。複数メンバーらの共同研究によって、学部全体の学術研究レベルが一層向上し、教育にも反映されるようになってきた。また、その成果を社会全体に公開出版のかたちで発信することにより、地域に対する貢献も実現しつつある。当「アジア研究プロジェクト」はすでに3年間にわたって研究活動を実施してきた。論文集『アジア研究』(1)と(2)、それに『アジア研究』(別冊1)を出版し、社会的にも各界から好評を得ている。今後も一層、「アジアのあり方」について、アプローチを深めていきたい。

(楊 海英)